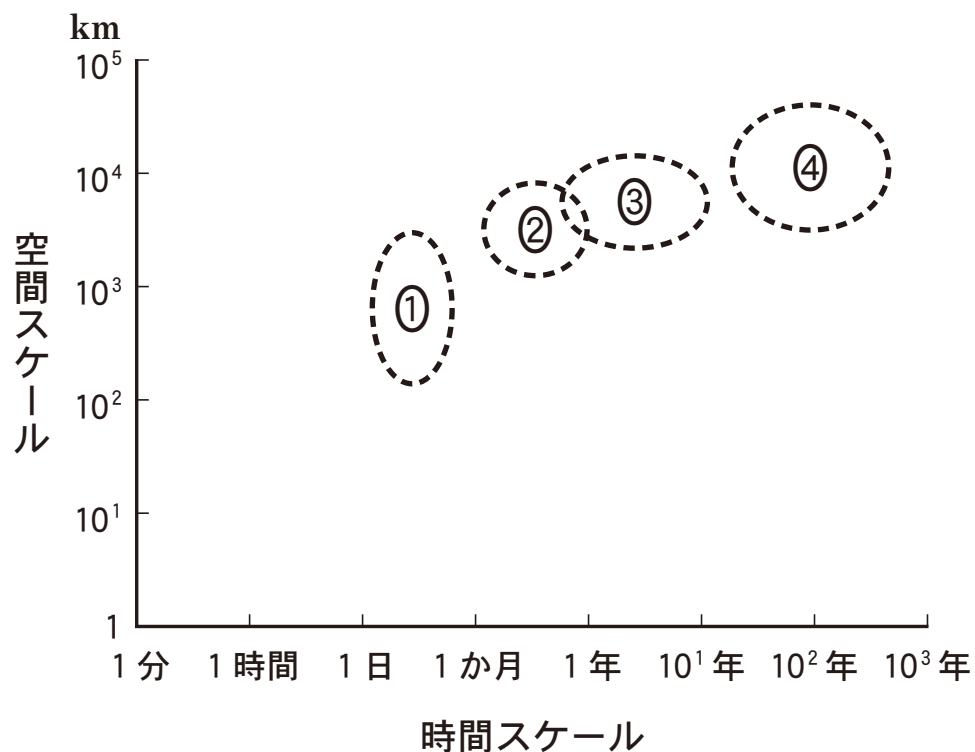


地 理 B

(解答番号 ~)

第1問 自然環境と自然災害に関する次の問い(問1～6)に答えよ。(配点 20)

問1 自然環境に関する様々な現象の理解には、それぞれの時間スケールと空間スケールの認識が必要になる。次の図1は、気候や気象に関するいくつかの現象についておおよその時間スケールと空間スケールを模式的に示したものであり、①～④は、エルニーニョ・ラニーニャ現象、地球温暖化、低気圧・台風、モンスーンのいずれかである。モンスーンを示したものとして最も適当なものを、図1中の①～④のうちから一つ選べ。



日本気象学会編『新教養の気象学』などにより作成。

図 1

問 4 次の図 5 中の①～⑤は、自然災害の影響を受ける大西洋周辺のいくつかの地域を示したものである。また、後の文 J と K は、いくつかの地域で発生する自然災害について述べたものである。これらのうち、**J と K の両方**が当てはまる地域と、**J のみ**が当てはまる地域を、図 5 中の①～⑤のうちから一つずつ選べ。

J と K の両方 ・ J のみ

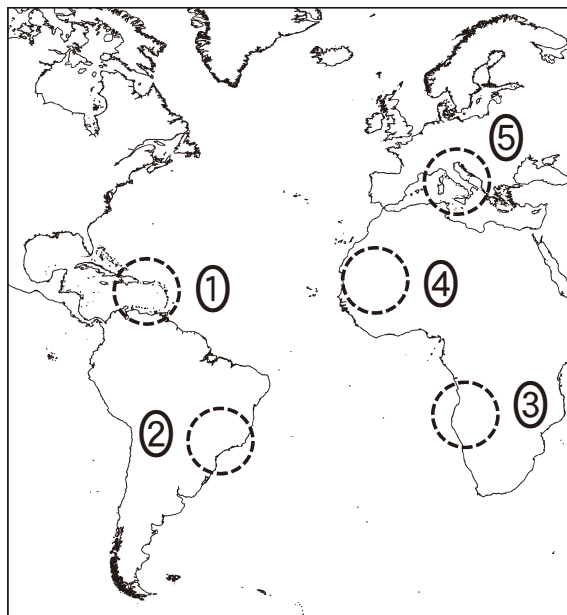


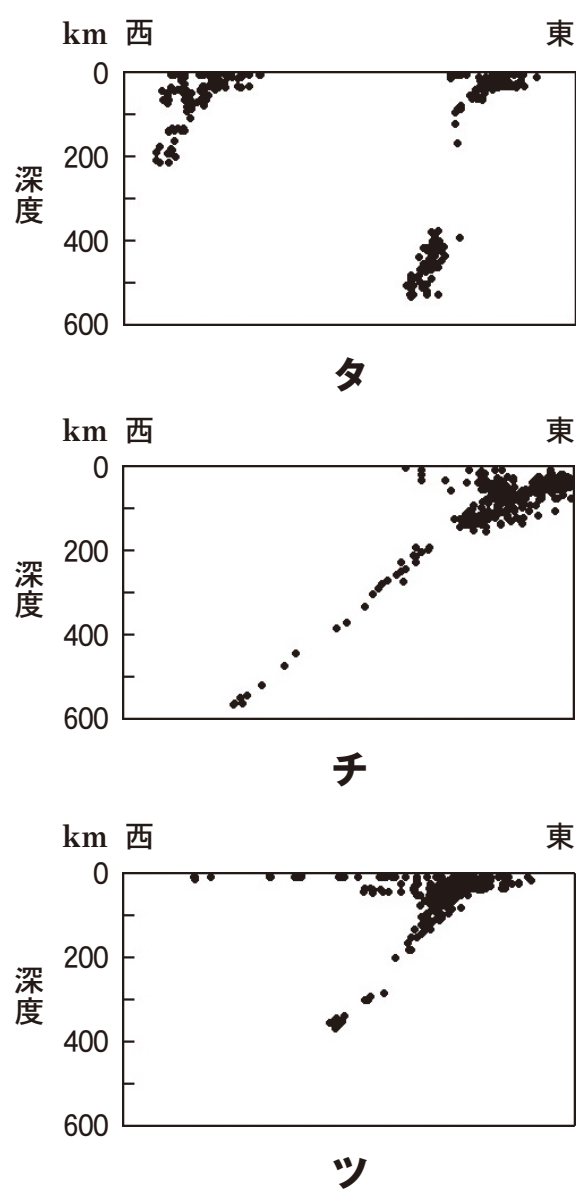
図 5

- J 火山が分布し、噴火に伴う噴出物や火砕流などによる災害が発生する。
- K 熱帯低気圧が頻繁に襲来し、強風や大雨、高潮などによる災害が発生する。

地理B

問 5 次の図 6 中のタ～ツは、図 7 中の P～R のいずれかの範囲において発生した地震*の震源について、東西方向の位置と深度を示したものである。タ～ツと P～R との正しい組合せを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。 6

*2012～2020 年に発生したマグニチュード 3 以上の地震。



USGS の資料により作成。

図 6

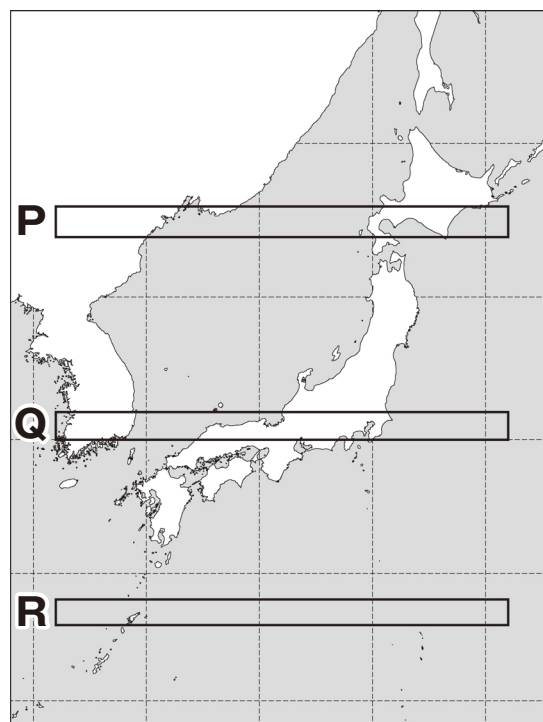


図 7

	①	②	③	④	⑤	⑥
タ	P	P	Q	Q	R	R
チ	Q	R	P	R	P	Q
ツ	R	Q	R	P	Q	P

問 6 次の図 8 は、日本の都市内を流れる小規模な河川について、短時間の豪雨の降水量と河川の水位の変化を模式的に示したものであり、凡例 X と Y は、都市化の前と後のいずれかである。また、後の文章は、図 8 に関することがらについて述べたものである。空欄 マ に当てはまる語句と、空欄 ミ に当てはまる文との組合せとして最も適当なものを、後の ①～④のうちから一つ選べ。 7

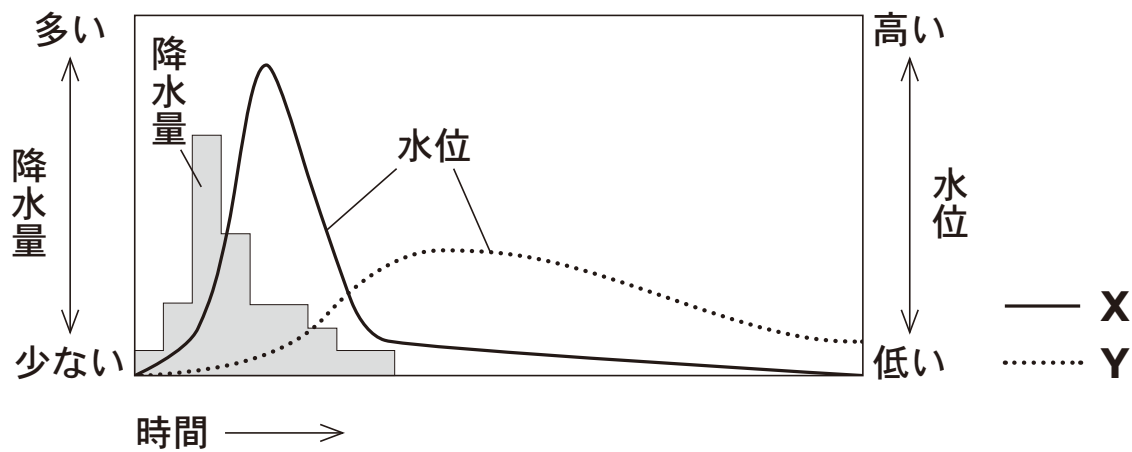


図 8

雨の降り方が同じであっても、都市化の前と後では河川の水位の変化が異なり、都市化によって(マ)のように変化する。これは、(ミ)ことが主な要因である。

(ミ)に当てはまる文

- m 河道が改修され、遊水地や放水路が造られた
- n 森林や田畑が減少し、地表面が舗装された

	①	②	③	④
マ	XからY	XからY	YからX	YからX
ミ	m	n	m	n